

# 東日本大震災・原発事故と 双葉町の復興状況について



ふたばで、  
ふたたび。



令和5年1月  
福島県双葉町

# 双葉町の位置関係



## 双葉町の基礎情報

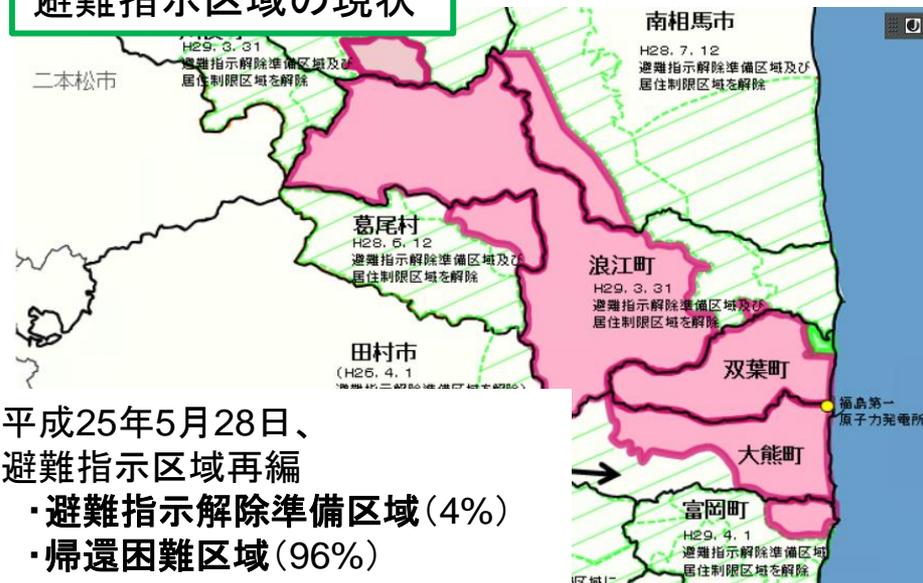
平成23年3月11日当時

- 人口 : 7,140人
- 世帯数 : 2,611世帯
- 面積 : 51.42km<sup>2</sup>

## 発災時時系列

- 3/11 14:46 双葉町は震度6強
- 15:30頃 津波により約3km<sup>2</sup>浸水
- 19:03 原子力緊急事態宣言発令
- 21:23 第一原発から半径3km圏内の避難及び10kmの屋内退避
- 3/12 5:44 半径10km圏内の住民に避難指示
- 7:30 町災害対策本部で全町避難を決定
- 14:00 双葉町役場を閉鎖
- 15:36 第一原発1号機原子炉建屋爆発

## 避難指示区域の現状



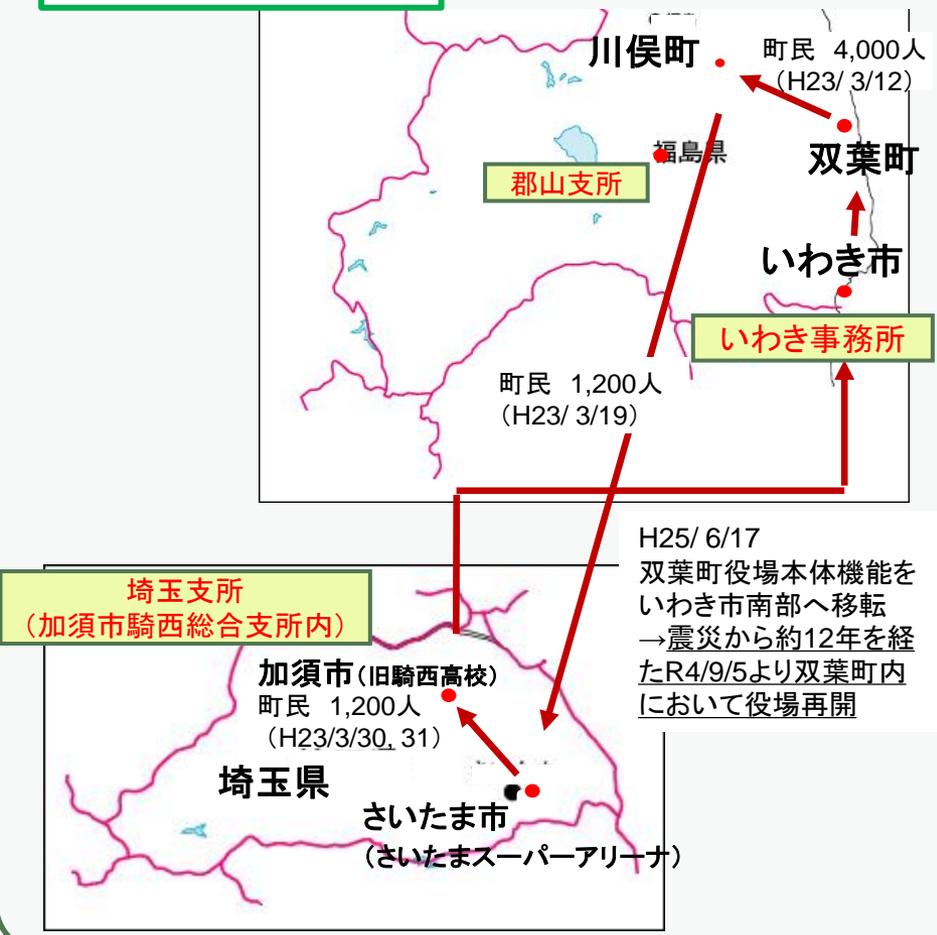
平成25年5月28日、  
避難指示区域再編

- ・避難指示解除準備区域(4%)
- ・帰還困難区域(96%)

## 被害状況

- 人的被害:死者179人  
(直接死16人、死亡扱い5人、関連死158人)
- 双葉町内全域避難指示  
⇒令和4年8月30日に特定復興再生拠点区域の避難指示解除を実現するも、多くの方が避難を継続中

## 役場の避難先変遷



## 地震



双葉町においても、最大震度6強  
多くの家屋が倒壊、インフラも  
大きなダメージを受けました



JR常磐線の橋梁が倒壊

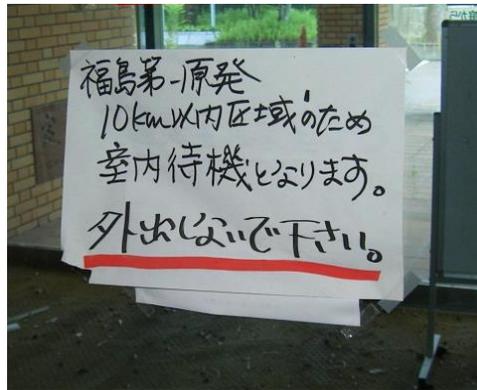
## 津波

最大16.5mの巨大な津波が到  
来し、多くの家屋が流され、大  
勢の方が亡くなりました



## 原子力災害

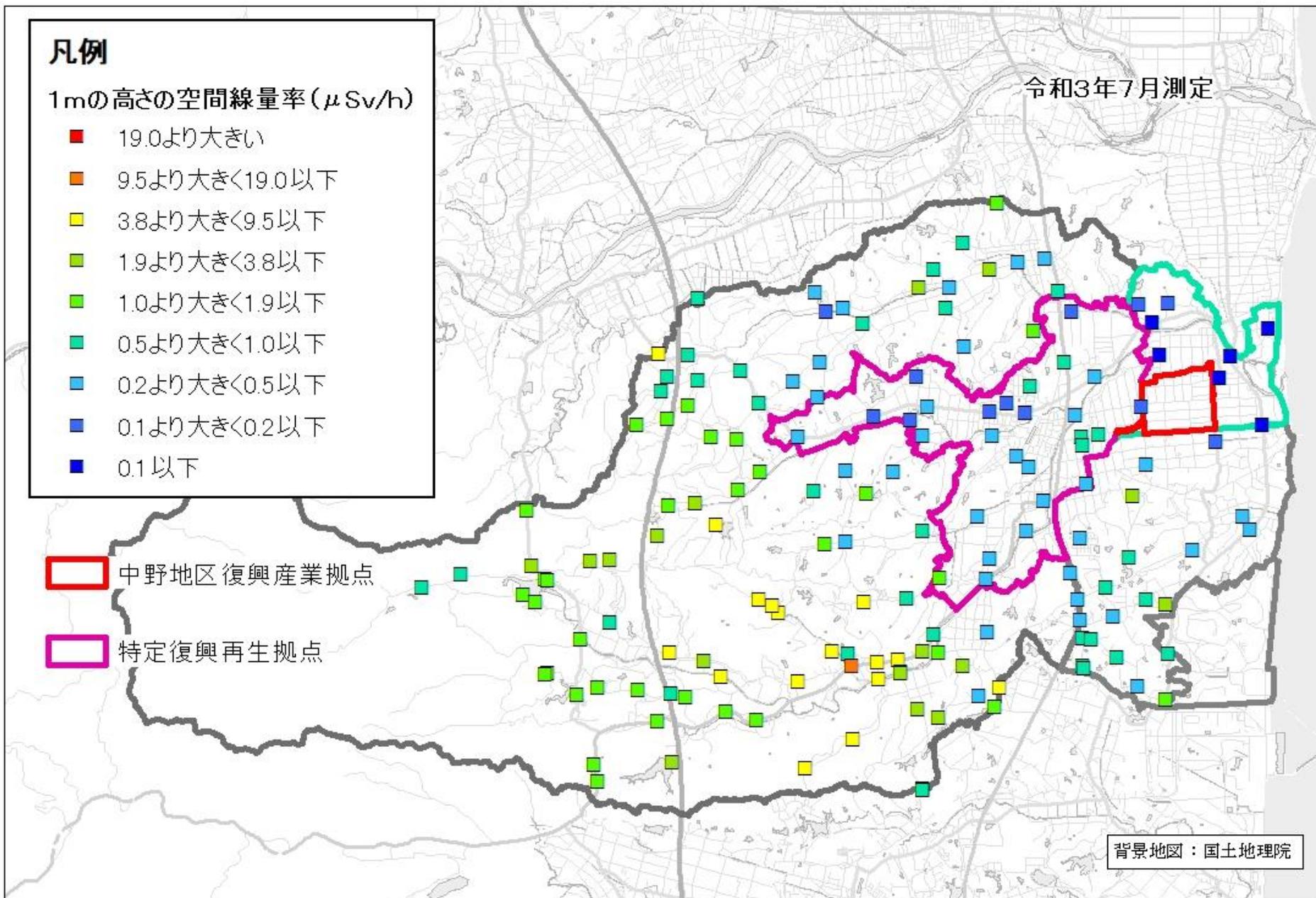
福島第一原子力発電所事故により、全ての双葉町民は、今日にいたるまで避難生活を強いられています  
未だ解除の見通しが立っていない区域が、町の約85%にも上り、その中には県内中の除染土壌を受け入れる中間貯蔵施設も含まれます



# 双葉町の避難指示区域の現状

- 町の約4%は、令和2年3月4日に初めての避難指示解除を実現。
  - ・中野地区復興産業拠点や水田再生、伝承館による震災アーカイブ・情報発信を担う先行的復興拠点
- 町の約96%が帰還困難区域
  - ・そのうち、特定復興再生拠点区域は双葉駅を中心とする約11%。令和4年(2022年)8月30日に避難指示解除が実現した。(※特定復興再生拠点区域のうち双葉駅及び広場、一部道路は令和2年3月4日に解除済)
  - ・中間貯蔵施設を含む他の区域は、解除に向けた見通しが立てられない現状







- 地元農業者が中心となって、**除染後の農地の保全管理を実施**。
- 出荷制限解除に向け、**野菜の試験作付けを開始**(令和2年9月～)。収穫後、検査の結果基準値を下回った → **令和3年3月26日に野菜5種類の出荷制限が解除**
- 営農再開機運の向上や販路確保などのため、農業生産法人舞台ファームとの連携協定を締結。**営農再開ビジョンを令和3年3月に策定**

- 12市町村を中心に、**震災の教訓や復興の現状を学ぶことができる、広域周遊ルートを形成し、人の流れを創出することが重要**。
- 県により、「**東日本大震災・原子力災害伝承館**」、「**復興祈念公園**」が整備される
- 隣接して約140室の**ホテルが開業**。
- **震災の記憶を傳承し、復興への思いをつなぐ中心的な拠点として、双葉町への関心をつなぎ、交流人口拡大を図る**



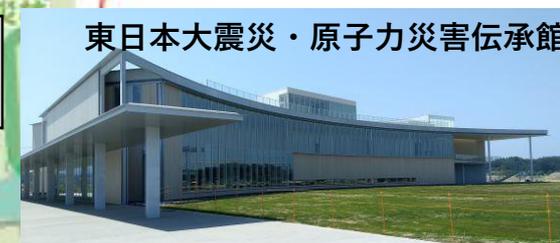
なりわいの再生  
(営農再開の推進)

被災伝承・復興祈念  
それを通じた交流人口の拡大

なりわいの再生・企業誘致  
(中野地区復興産業拠点)



双葉町産業交流センター



東日本大震災・原子力災害伝承館



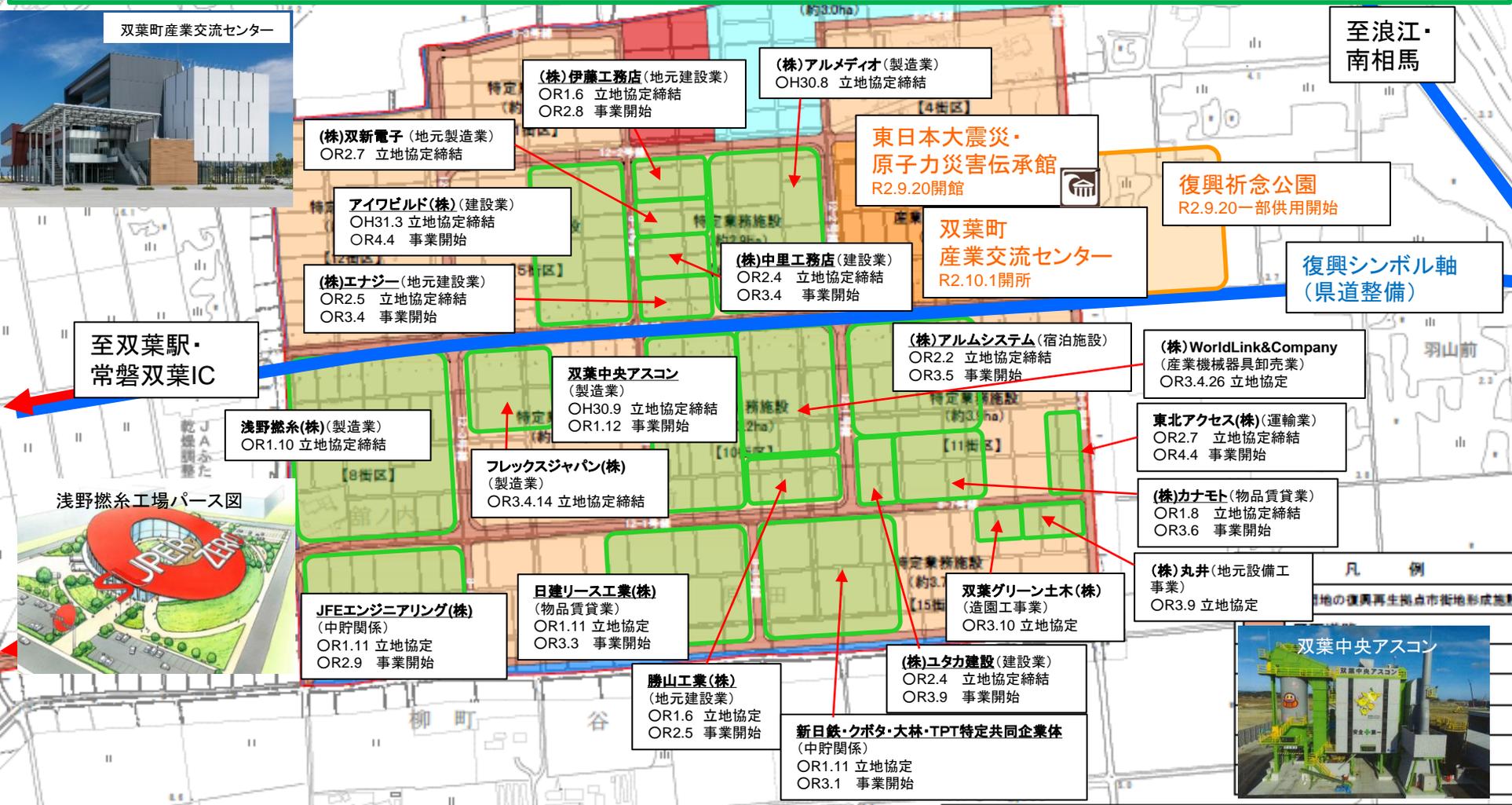
宿泊施設の進出 (2021年5月開業)

- 住民帰還に先立ち、「**働く場**」を**先行的に整備**。
- **20件の立地**を予定し、13件は操業済み。**地元企業の事業再開は4件**。
- 技術力を活かし脱下請けを図った燃糸業者も進出し、**町と共同で双葉ブランドのタオルを企画**。
- **貸事務所や飲食店舗を備える「産業交流センター」を整備**。



# なりわいづくり～中野地区復興産業拠点における企業立地・事業再開推進～

- 避難指示解除準備区域である中野地区内に、町のあらたな「働く拠点」を整備(中野地区復興産業拠点)。約50ha
- 2022年8月末現在20件が立地予定。うち13件(企業名に下線あり)が事業開始。
- 地元企業の帰還・事業再開が実現している他、新技術を用いた製品の量産化を図る企業進出も実現。
- 多くの企業は、事業再開補助金や自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金等を活用。
- 拠点内に、被災を伝承し、復興を祈念するエリアとして、アーカイブ拠点施設「東日本大震災・原子力災害伝承館」や復興祈念公園が整備。これらを拠点に、復興ツーリズムを育成し、町への人の流れを生み出す地域として位置づけ。2020年3月4日に避難指示解除。



- 災害公営住宅30戸、再生賃貸住宅56戸を整備予定
- 令和4年10月から入居開始
- 入居者同士のコミュニケーションを育む軒下空間や集会所などを整備



駅西住宅外観



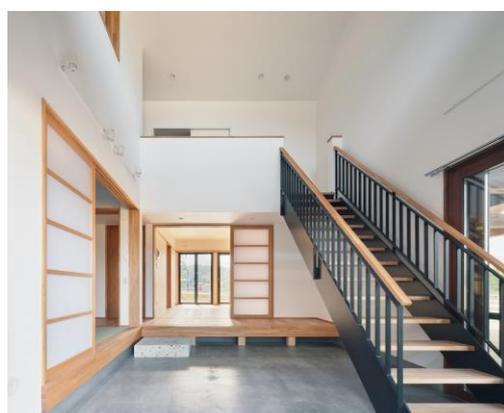
暮らしを感じる路地



軒下空間



大屋根下の軒下



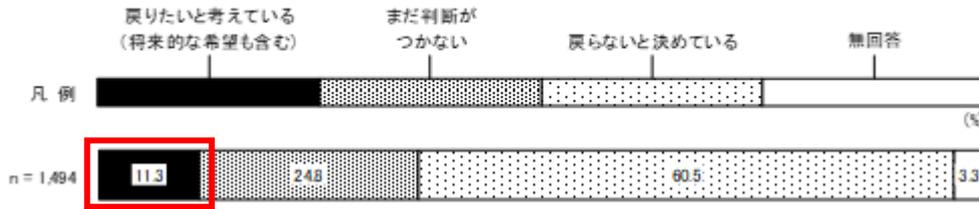
土間玄関



集会所

# 復興の本格化に向けて

・避難生活の長期化により、帰還意向は必ずしも高くない現実



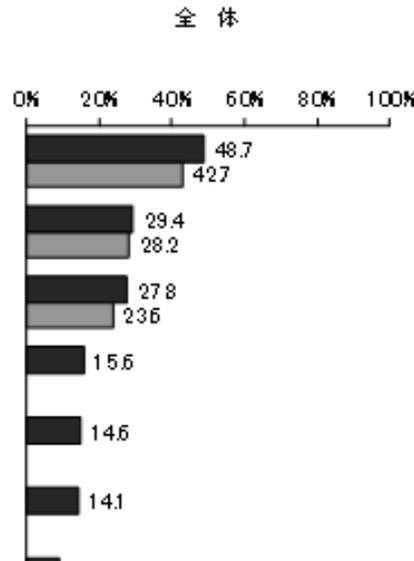
令和3年度の住民意向調査によると、積極的な帰還意向は約11%



駅西住宅内に診療所を整備。令和5年2月より週3日程度診察予定

## 帰還を判断するために必要なこと

- 医療・介護福祉施設の再開や新設
- 商業施設の再開や新設
- 上下水道等ライフラインの整備状況に関する情報
- JR双葉駅西側に整備する新たな公営住宅に関する情報
- 双葉町の今後の姿
- 除染・解体に関する情報



イオン東北・トヨタ様のご協力により、町内にて移動販売を毎日(土日除く)実施。また、双葉駅近接地に商業施設の整備を予定

# 復興の本格化に向けて

## ■ 段階的な賑わい展開イメージ

### Step1 (役割分担: 公共主導)

避難指示解除後～  
駅前メインストリート沿いの賑わいづくり

- ・居住人口 : 数百人(町全体)
- ・主な居住者: 帰還町民、町内就業者、  
単身・夫婦



図 Step1の想定範囲

### Step2 (役割分担: 公民連携)

3～4年後  
駅周辺の面的な賑わいづくり

- ・居住人口 : 1,200人程度(町全体)
- ・主な居住者: 帰還町民、町内就業者・  
移住者・単身・夫婦

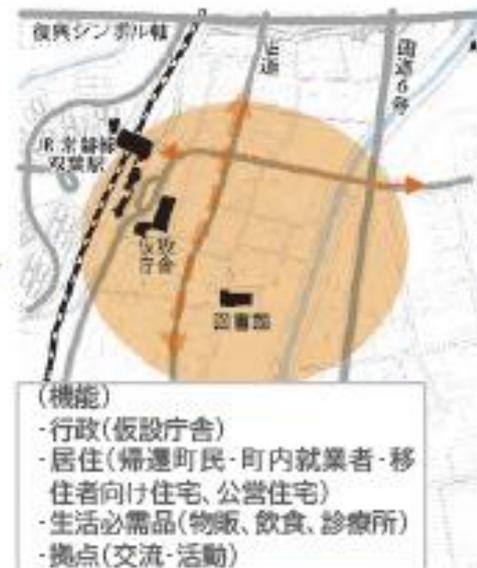


図 Step2の想定範囲

### Step3 (役割分担: 民間主導)

令和12年(2030年)頃～  
駅東エリア全体の面的な賑わいづくり

- ・居住人口: 2,000人程度(町全体)
- ・主な居住者: 帰還町民、町内就業者、  
移住者・単身・夫婦・ファミリー



図 Step3の想定範囲

令和4年6月に、避難指示解除後を見据えたものとしては初となる第3次復興まちづくり計画を策定し、町内のエリアごとにどのようなビジョンでまちづくりを行うかを表明した。

特に役場庁舎の位置する駅東側エリアは、震災前から賑わいの中心であり、復興に当たっても同エリアに賑わいを取り戻すために取り組んでいく。

## ちいさな一歩プロジェクトの取組み概要（仮説の実証に向けて）

### 取組みの概要

- 町内外のプレイヤーと協働して、空き地等の既存ストックで月1回の定期イベントを継続的に実施

### 取組みエリアとイメージ



復興まちづくりには行政はもちろん、民間のキープレイヤーも重要な存在であるが、避難生活を余儀なくされている中、町民キープレイヤーも見当たらない状況。  
試行錯誤の取組ではあるが、町内外のプレイヤーが集える場づくりを定期的に行い、プロジェクト、プレイヤーの発掘を行っている。

# ふたばダルマ市の再開



双葉町では震災前からダルマ市という江戸時代からの歴史を持つ祭りが行われていた。震災後は町外拠点(いわき市)での開催を余儀なくされていたが、本年は震災後初めて町内で開催することができた。復興のシンボルとして、全国各地から避難されている町民の方々も訪れ、盛大に開催された。